

ビジネス情報科 1年A組

教 科	商 業	科目(単位)	ソフトウェア活用 (2単位)
使用教科書	ソフトウェア活用 (東京法令出版)		
授 業 形 態	通常授業 ・ 分割授業 ・ TT		

※分割授業とは、クラスを少人数クラスに分割して授業を行うことを意味します。

※TT (チームティーティング) とは、複数の教師がチームを組んで指導にあたることを意味します。

1 科目の目標

<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

2 科目・授業の内容と進め方

<ul style="list-style-type: none"> 4月～6月末までは、ソフトウェアの活用を学び、資格取得も目指して実習中心に授業を進め、情報活用能力の育成を目指します。 7月～1月中旬までは、情報通信ネットワーク、ソフトウェアの活用について進んだ学習を行い、情報活用能力の育成を目指します。 1月末～3月までは、さらに高度な情報処理について学習します。

3 学習の方法

<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフト(EXCEL)やデータベースソフト(Access)を使用した学習が中心になります。休まず授業を受け毎時間集中してください。学校の授業に集中すれば、努力は必ず結果としてついてきます。 定期的に小テストを実施し、学習の理解度を測ります。時間があれば毎日少しずつ復習をしてください。

4 課題・補習について

<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中には課題を出し、休業明けにはその内容のテストを行います。 課題テストや定期考査等で得点が低い場合や実習の進捗が遅れている場合には、補習を行います。

5 この授業で取得可能な資格 (検定試験)

<ul style="list-style-type: none"> 全商情報処理検定 ビジネス情報部門 1級・2級

6 観点別学習状況の評価のポイント

知識・技能 (技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けている。</p>	<p>ソフトウェアの活用をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用して、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見しようとしている。また、ソフトウェアの活用が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、ソフトウェアに関する技術などによってこれらの課題を解決するための最適な解を導き出し、よりよく解決しようとしている。</p>	<p>企業活動を改善する力の向上を目指して自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち他者と積極的に関わりながら、企業活動におけるソフトウェアの活用に関与し責任をもって取り組む態度を身に付けている。</p>

ビジネス情報科 1年A組

教 科	商 業	科目(単位)	ソフトウェア活用 (2単位)
-----	-----	--------	----------------

7 年間の学習計画

月	単元名	学習の内容	評価方法 (課題等)
4 5 6	第1章 表計算ソフトウェアの活用 第1節 情報の集計 第2節 情報の分析	<ul style="list-style-type: none"> データを目的にあわせてグループごとに集計したり、項目ごとに集計したりするための方法について学習する。 データを集計した結果を加工して、傾向をつかむための分析や、効率よく商品管理をするために分析をする方法について学習する。 	行動観察 小テスト 課題の達成状況 前期 中間考査
7 8 9	第3節 シミュレーション 第4節 オペレーションズリサーチ 第5節 手続きの自動化	<ul style="list-style-type: none"> モデルをつくり、条件を変えたり乱数を使用したりして、コンピュータで模擬的に試行(シミュレーション)して予測をするための方法について学習する。 集計、分析したデータを活用して経営に関する問題を発見し、解決策を見つける手法について学習する。 効率のよい処理を行うため、繰り返して実行する操作などを自動化するマクロを作成する方法について学習する。 	行動観察 小テスト 課題の達成状況 前期 期末考査
10 11 12	第2章 データベースソフトウェアの活用 第1節 データベースの重要性 第2節 リレーショナルデータベースの概要と設計	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス活動において、情報の収集・整理や管理に利用されているデータベースの概要や重要性について学習する。 データベースのデータを守るためのしくみについて学習する。 	行動観察 課題の達成状況 小テスト 後期 中間考査
1 2 3	第3節 データベースの作成と操作 第4節 手続きの自動化	<ul style="list-style-type: none"> データベースを設計するために、データの正規化とE-Rモデルについて学習する。 商品管理についてのデータベースを作成するために必要なデータベースソフトウェアの操作方法を学習する。また、学習内容を活用して報告書を作成する。 	行動観察 課題の達成状況 小テスト 学年末考査
		全商情報処理検定 ビジネス情報部門 2級	
		全商情報処理検定 ビジネス情報部門 1級	
		<ul style="list-style-type: none"> 一連の処理をマクロ機能によって自動化する方法と、メニューを作成する方法について学習する。 	